

角田市震災復旧・復興市民会議（第2回）議事要旨

1. 日 時：平成23年7月15日（金） 午後3時～午後5時

2. 会 場：市役所東庁舎 301会議室

3. 出席者：12名出席

（構成員）

本 田 敏 昭	角田市議会議員
遠 藤 昭 助	角田市行政区長連絡協議会会長
天 野 忠 正	角田市商工会会長
本 郷 茂 義	角田市観光物産協会事務局長
戸 村 真喜夫	みやぎ仙南農協角田地区本部長
星 文 和	角田市教育委員会委員長
笹 森 紀 男	角田市医師会会長
吉 田 克 哉	角田市社会福祉協議会会長
本 田 貴 志	アルプス電気(株)角田工場管理課長
小 嶋 圭 吾	角田市文化協会会長
荒 井 秀 一	前角田市長期総合計画審議会委員
斎 藤 栄 子	前角田市長期総合計画審議会委員

（欠 席）

佐 藤 忠 義	建築士会角田伊具支部長
宮 崎 三枝子	前角田市長期総合計画審議会委員

（市 側）

大 友 喜 助	角田市長
小 野 隆 男	角田市副市長
木 村 伸 一	角田市総務部長

（事務局）

島 津 健 一	角田市総務部政策企画課長
油 井 政 之	角田市総務部防災安全課長
泉 隆 司	角田市総務部政策企画課長補佐
玉 瀧 和 紀	角田市総務部政策企画課政策調整係長
森 敦	角田市総務部政策企画課政策調整係

4. 報告事項

- ・東日本大震災にかかる職員アンケート結果について

5. 協議事項

- ・角田市震災復旧・復興基本計画(案)について

6. 内 容

●市長あいさつ

国も混乱していて、復旧・復興の具体的な支援内容がなかなか進んでいない。災害査定が少しずつ進められていて角田市の被害額も70億円代から現在は40億円代となっている。その額を大きく締めているのは下水道施設であり、約30億円となっている。

「かくだの里から笑顔と元気を」のロゴのもとで取組みを行っている。先日もプロ野球ソフトバンク元監督の王さんが来角し、野球教室を開いてくれた。また、ほろ酔い祭りも開催され、約1,000人の参加者があったようだ。いろいろな取組みの中で、市民生活が再生されていくものと感じている。今日は2回目の市民会議であり、委員の皆様からの忌憚のないご意見を頂戴したい。

●報告事項は、玉淵政策企画課政策調整係長から説明。意見・質疑等は、以下のとおり。

- アンケートの回答率が50.2%というのは、対象者が職員ということからすると大分低い（農協では考えられない低さと思える）。どのような理由か。
⇒市長・事務局：調査期間が短かったことに加え、今回の調査はパソコンを利用したもので、現業職員及び保育所職員等パソコン環境が充分でないところの職員が80名程いる。それらのことが影響したものである。
- これからはコミュニティを中心したコミュニケーションは大変重要になると考えている。そういった観点から、民生委員や区長等にアンケートを実施する考えはないか。
⇒事務局：「職員アンケート」は、前回の会議で窓口対応をした職員が最も災害において何が必要かを理解しているのではないかと、この意見からこれを実施した。この計画は、8月中には策定したいと考えていて、ご提案の内容はスケジュールから実施は困難である。
- 民生委員は、反省会をしていてその内容はまとめている。
- 区長会全体としては、意見の集約はしていないが、角田地区としてはまとめている。

●協議事項は、泉政策企画課長補佐から説明。意見・質疑等は、以下のとおり。

- 資料2の9頁（5）放射能への対応の一文に「健康被害」や「農畜産物の汚染被害」の記述があるが、これは書き方によっては、風評被害に直結する懸念があると思う。また、同頁の放射線量グラフは、それがいったいどういう健康被害をもたらすのかが

それを見ただけでは分からない。

今回の放射能問題は、燃料棒が溶け落ち、水素爆発を起こした時に放射線含有物質が飛散したもので、それ以後はほとんど飛散していないと考えられる。例えば、20 mSv（ミリシーベルト）は、癌の発生率を0.5%増やすといわれている。一般的に癌の発症率は、通常男性で50%、女性で40%であり、このことからすると、20 mSvは、そのことにより1,000人に1人の癌発症者をだすか否かの話となり、角田市の1 mSvは、殆ど問題ない数値と思われる。そういった状況において、小中学校のプールを使用させないとしたことに疑問を感じている。今のプール水を測定すれば現状がわかることなので、測定結果から判断し、考え方の方向を変えることも必要であると思うが如何か。

⇒市長：学校プールを使用しないと判断したその時点では、屋内プールがあることからより安全な教育との判断をし、その選択をした。確かに今、そこまでして「屋内プールなのか」との意見もある。しかし、学校側もすでにその方針決定を受け事を動かしており、そういった状況を含めご理解願いたい。

- 資料2の9頁（4）仮設住宅等の維持管理で、公営住宅の整備のため都市計画マスタープランを見直すとする。2年かけて計画を見直し、その後の住宅となると、スピードに欠ける感がある。被災し、今角田に住んでいる方に引き続き住んでもらえることを念頭に置いてほしい。

また、これから東京電力に損害の請求をすることが想定される。その時に必要となる損害額を計算するための農家家計簿的なものを記録しておかなければならないと思うが、どうか。また、その対応をする場合は、どこが主幹課となるのか。

さらに、今回の震災ではガソリン問題が大きかった。一般的にはガソリンスタンドのタンクは、50キロリットルのタンクが通常あり、それから計算すると車1台20リットルを入れると想定しても、2,500台にしかならない。こういったことから、市民に働きかけ、車のガソリンタンクが半分になったら満タンにするような啓発を進めるべきである。

⇒事務局：まず、住宅の件であるが、行政で運営できるのは（公営住宅法に基づく）公営住宅であるので、その法に基づく住宅となると、直接被災者のためにとはならない。しかし、できるだけ対応できるように検討をしたい。次に、放射能汚染に係る補償については、東京電力も考えているようだが、具体的な内容は、分からない。農作物被害が中心となれば、農政課が中心となり帳簿等整備を行うと思うが、今のところはっきりとは言えない。ガソリンについては、今後マニュアル化しようとしているものの中で対応したいと考えている。

- これからは、災害対策・対応においても、「共助」の考え方が特に大切である。しかし、この考え方の中心となるコミュニケーションが薄れていることから、地域の絆の大切さを加筆してほしい。また、地区と市の防災組織の連携が分からないので、そ

のことも考慮してほしい。

⇒事務局：検討し、対応したい。

- 今年の米は、「売れないだろう」と心配している。安全基準が示され、その数値以内でも、すこしでも放射線が出れば売れなくなる。これが風評被害である。したがって、こういった計画でも放射能の関係文言には、特に気をつける必要がある。風評被害になれば、東電への請求や当該期間内の運転資金の問題もある。自ら風評被害を招くようなことにならないような表現となるよう留意すべきである。

⇒事務局：そのようなことにならないよう表現を工夫したい。

- 災害時におけるボランティア活動を行政区へも働きかけてほしい。共同募金会で発電機を整備し役に立った。仮設トイレには、手すりがなく使い勝手が悪かった。こういったことから、当該計画にはもう少しソフト面の内容を加えてほしい。

- 区長会では、今年3月には、自主防災組織の話をしてきた。この震災を受け、今後全地区で当該組織をつくる。行政側に指導をお願いしたい。また、発電機は必要であると痛感している。避難所指定になるところには是非発電機を備えつけてほしい。

⇒事務局：発電機については、補正予算で対応した。今後、順次整備していく。

- 震災により道路が悪くなっているところがある。特に通学路が心配であり、できるだけ早く整備してほしい。また、倒壊家屋の撤去により、空き地が目立つ。空き地を利用したイベントなどで、賑わいを戻せないか。

⇒市長：検討したい。

- 影響する放射線量についての基準値を明確にした内容としたほうが分かりやすい。また、避難者には角田で農業を営みたいという人もいて、そういった人たちを取り込む内容も必要であると思う。

目黒区との防災協定があるとも聞いているが、災害物資（備蓄品）は、広域連携を利用した仕組みを構築すべきと思う。

⇒市長：目黒区や広域自治体との協定は結んでいるが、今後検討し、必要に応じ修正したい。

- 賑わいの拠点施設整備と街なか交流拠点整備は、この震災後どうなるのか。

⇒市長：街なか交流拠点整備については、市民センターの件もあることから、延伸しながら改めて検討することとなる。

- 市民センター大ホールはどのようになるのか。

⇒市長：現ホールを現状復旧となると耐震施工するため、席数が減少し、そのことによりホール機能も低下する。このことから、別の考え方を財源との調整を取りながら現在検討中である。いずれにせよ、良い形にしたい。

- 市民センター大ホール改修については、市民の会を結成し検討し、会として意見を取りまとめたいと思っている。よろしくをお願いしたい。

- 商工会の会員から要望があった。是非検討してほしい。一つは、これから災害復旧

等事業が出てくると思うが、地元業者に配慮した契約手続きとなるようお願いしたい。二つ目には、8月のお盆に夏まつりを実施するにあたり、歩行者天国となる道路が大分傷んでいる。アスファルトの補修をしてほしい。三つ目には、プレミアム商品券を出せないかと思っている。よろしくご検討願いたい。

⇒市長：地元業者の方々には、配慮した形を考えている。アスファルトの補修は、検討し実施していく。プレミアム商品券は、改めて検討したい。

皆様から、多くのご意見等頂いた。改めてその内容を検証し、この計画に盛り込むべきは盛り込み、修正すべきは修正したい。最終的には修正された内容で8月中に成案としてまとめていきたい。

- 最後に事務局より「宮城県震災復興計画(案)」の県民説明会日程をお知らせし、閉会した。

以上